



2023年3月期 第3四半期決算報告

2023年2月9日

株式会社 **ニコン**

1. 2023年3月期 第3四半期決算報告

2. 2023年3月期 通期見通し

2023年3月期 Q3累計：財務ハイライト



単位：億円	22年3月期 Q3累計実績		23年3月期 Q3累計実績		前年比	
					増減額	増減率
売上収益	4,063		4,560		+497	+12.2%
営業利益	469		506		+37	+7.8%
営業利益率	11.6%		11.1%			
税引前利益	525		523		▲2	▲0.5%
税引前利益率	12.9%		11.5%			
当期利益*	390		394		+4	+1.0%
当期利益率	9.6%		8.7%			
FCF	244		▲224		▲468	-
為替：USドル ユーロ	111円		136円		売上収益への影響 +409	
	131円		141円		営業利益への影響 +139	

前年比で売上収益は増加、営業利益は増益、当期利益は微増

* 親会社の所有者に帰属する四半期利益

2023年3月期 Q3累計：セグメント別業績



単位：億円		22年3月期 Q3累計実績	23年3月期 Q3累計実績	前年比	
				増減額	増減率
映像事業	売上収益	1,360	1,844	+484	+35.6%
	営業利益	188	412	+224	+119.4%
精機事業	売上収益	1,629	1,335	▲294	▲18.1%
	営業利益	334	146	▲188	▲56.3%
ヘルスケア事業	売上収益	532	721	+189	+35.7%
	営業利益	28	72	+44	+157.9%
コンポーネント事業	売上収益	306	381	+75	+24.5%
	営業利益	101	133	+32	+32.1%
産業機器・その他	売上収益	235	278	+43	+18.4%
	営業利益	1	24	+23	+1320.9%
各セグメントに配賦 されない全社損益	営業利益	▲184	▲283	▲99	-
連結	売上収益	4,063	4,560	+497	+12.2%
	営業利益	469	506	+37	+7.8%

映像事業とヘルスケア事業が大幅増益、精機事業は減益

注：2023年3月期より「次世代プロジェクト本部」は、「精機事業」から「各セグメントに配賦されない全社損益」に移管、2022年3月期へ遡及適用

注：「各セグメントに配賦されない全社損益」は「セグメント間取引消去」を含む。セグメント間取引消去額は、22年3月期Q3累計22億円、23年3月期Q3累計▲10億円

2023年3月期 Q3 : 映像事業



単位：億円	22年3月期		23年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	468	1,360	699	1,844	+231	+484
営業利益	63	188	190	412	+127	+224
営業利益率	13.3%	13.8%	27.2%	22.4%		
レンズ交換式 デジタルカメラ	16万台	55万台	21万台	58万台	+5万台	+3万台
交換レンズ	36万本	102万本	32万本	93万本	▲4万本	▲9万本
レンズ一体型 デジタルカメラ	4万台	17万台	3万台	10万台	▲1万台	▲7万台

- **Q3累計前年比**：円安効果に加え、プロ・趣味層向け中高級機シフトが進み、平均販売単価が上昇し増収増益。交換レンズも総数は減少したもののフルサイズの高価格帯が堅調で増収増益に貢献。研究開発費等の費用の繰延もあり、計画からも大幅に上振れ

注：レンズ一体型デジタルカメラは、ボディとレンズが一体となり、レンズ交換不可のカメラを指す（ニコンの該当機種：COOLPIX P1000, P950等）

2023年3月期 Q3：精機事業



単位：億円	22年3月期		23年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	437	1,629	502	1,335	+65	▲294
営業利益	59	334	84	146	+25	▲188
営業利益率	13.5%	20.5%	16.6%	10.9%		
FPD露光装置	7台	37台	6台	19台	▲1台	▲18台
半導体露光装置 新品／中古	3/5台	9/14台	6/4台	14/12台	+3/▲1台	+5/▲2台

- **Q3累計前年比**： FPD装置事業で前年に比べ販売台数は大きく減少。一方、半導体露光装置では、顧客要請により一部装置の繰延があったものの、前年に比べ販売台数は増加。精機事業全体で減収減益

注：2023年3月期より「次世代プロジェクト本部」は、「精機事業」から「各セグメントに配賦されない全社損益」に移管、2022年3月期へ遡及適用

注：2023年3月期より、半導体露光装置にi線を含む非微細化領域の露光装置を含めて表記（2022年3月期分についても新しい台数の計上基準で表示）

2023年3月期 Q3：ヘルスケア事業



単位：億円	22年3月期		23年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	202	532	255	721	+53	+189
営業利益	19	28	36	72	+17	+44
営業利益率	9.3%	5.3%	14.1%	10.1%		

- Q3累計前年比**：北米を中心に生物顕微鏡・網膜画像診断機器が好調に推移したことに加え、円安効果もあり大幅な増収増益。売上収益・営業利益ともに過去最高。営業利益率も10%台に到達

2023年3月期 Q3 : コンポーネント事業



単位：億円	22年3月期		23年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	139	306	121	381	▲18	+75
営業利益	67	101	35	133	▲32	+32
営業利益率	48.1%	33.1%	29.8%	35.2%		

- Q3累計前年比**： EUV関連コンポーネントに加え、半導体関連の光学部品・光学コンポーネントやエンコーダ、FPDフォトマスク基板等も拡大し、増収増益基調が継続。営業利益率も30%台を維持

2023年3月期 Q3：産業機器・その他



単位：億円	22年3月期		23年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	89	235	102	278	+13	+43
営業利益	17	1	9	24	▲8	+23
営業利益率	20.3%	0.7%	9.2%	8.9%		

- Q3累計前年比**：産業機器事業では、画像測定システム等の測定機器や工業用顕微鏡の販売が好調。
 産業機器・その他事業全体で増収増益

1. 2023年3月期 第3四半期決算報告

2. 2023年3月期 通期見通し

売上収益

- **全社見通し 6,300億円**（前回予想から150億円下方修正）
 - 精機事業：一部のFPD・半導体露光装置の据付完了の繰延に伴い、200億円下方修正

営業利益

- **全社見通し 550億円**（前回予想据え置き）
 - 映像事業：Q3実績を踏まえ、90億円上方修正
 - 精機事業：一部のFPD・半導体露光装置の据付完了の繰延に伴い、60億円下方修正
 - 全社損益：成長投資関連費用等の増加により、20億円下方修正

当期利益*

- **全社見通し 420億円**（前回予想据え置き）

株主還元

- **期末配当金20円、年間配当金予想40円**（前回予想据え置き）
- **自己株式の取得（1月末時点）：1,756万株・249億円相当取得済（上限300億円）**

為替前提

- **USD 135円、ユーロ 139円**（Q4は、USD 130円、ユーロ 135円）

トピックス

- **SLM社株式に対する公開買付け完了に伴い、2023年1月に連結子会社化**

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

2023年3月期 通期見通し：財務ハイライト



単位：億円	22年3月期 実績	前回予想 (11/10)	今回予想 (2/9)	前年比	前回予想比
売上収益	5,396	6,450	6,300	+904	▲150
営業利益	499	550	550	+51	±0
営業利益率	9.3%	8.5%	8.7%		
税引前利益	570	570	570	±0	±0
税引前利益率	10.6%	8.8%	9.0%		
当期利益*	426	420	420	▲6	±0
当期利益率	7.9%	6.5%	6.7%		
EPS	116.23円	115.63円	116.71円	+0.48円	+1.08円
年間配当	40円	40円	40円	±0円	±0円
ROE	7.5%	6.9%	7.0%	▲0.5P	+0.1P
為替：USドル	112円	135円	135円	売上収益への予想影響	
				+484	+20
ユーロ	131円	137円	139円	営業利益への予想影響	
				+149	+40

注：EPS（基本的1株当たり当期利益）＝当期利益÷期中平均株式数
 （2022年3月期実績は約3.67億株で計算、前回2023年3月期予想は約3.63億株、今回2023年3月期予想は約3.60億株で計算）

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

2023年3月期 通期見通し：セグメント別見通し

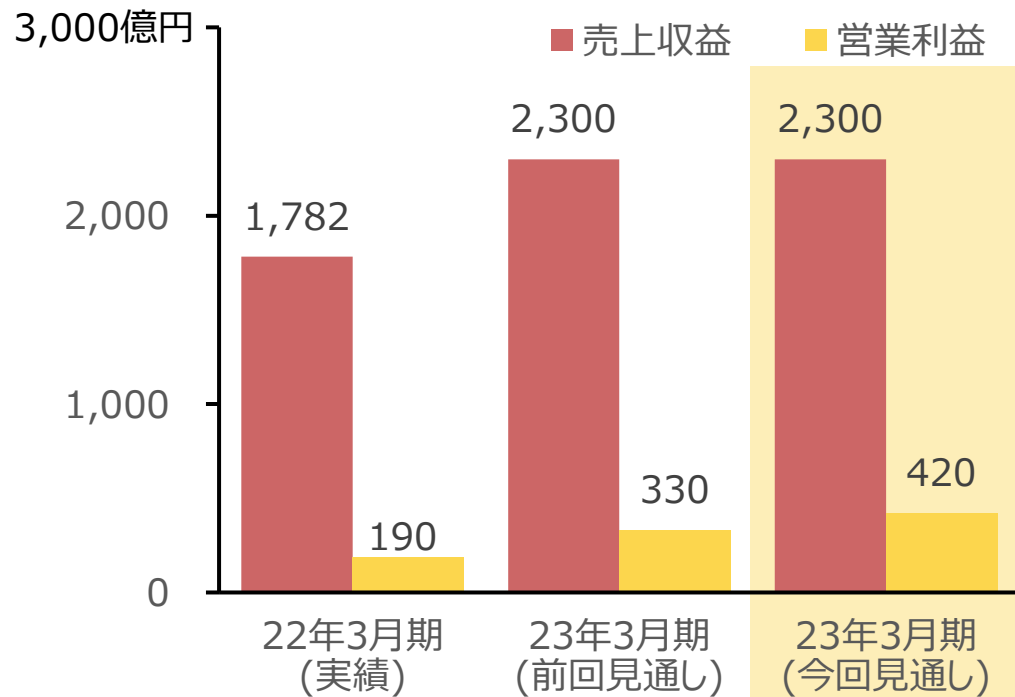


単位：億円		22年3月期実績	前回予想（11/10）	今回予想（2/9）	前年比	前回予想比
映像事業	売上収益	1,782	2,300	2,300	+518	±0
	営業利益	190	330	420	+230	+90
	営業利益率	10.7%	14.3%	18.3%	+7.6P	+4.0P
精機事業	売上収益	2,112	2,300	2,100	▲12	▲200
	営業利益	394	300	240	▲154	▲60
	営業利益率	18.7%	13.0%	11.4%	▲7.3P	▲1.6P
ヘルスケア事業	売上収益	732	930	930	+198	±0
	営業利益	43	80	80	+37	±0
	営業利益率	6.0%	8.6%	8.6%	+2.6P	±0.0P
コンポーネント事業	売上収益	408	530	530	+122	±0
	営業利益	127	180	180	+53	±0
	営業利益率	31.1%	34.0%	34.0%	+2.9P	±0.0P
産業機器・その他	売上収益	360	390	440	+80	+50
	営業利益	29	45	35	+6	▲10
	営業利益率	8.2%	11.5%	8.0%	▲0.2P	▲3.5P
各セグメントに配賦 されない全社損益	営業利益	▲286	▲385	▲405	▲119	▲20
連結	売上収益	5,396	6,450	6,300	+904	▲150
	営業利益	499	550	550	+51	±0
	営業利益率	9.3%	8.5%	8.7%	▲0.6P	+0.2P

注：2023年3月期より「次世代プロジェクト本部」は、「精機事業」から「各セグメントに配賦されない全社損益」に移管、2022年3月期へ遡及適用

注：「各セグメントに配賦されない全社損益」は「セグメント間取引消去」を含む

2023年3月期 通期見通し：映像事業



レンズ交換式デジタルカメラ (万台)

市場規模	512	540	580
ニコン	70	70	70

交換レンズ (万本)

市場規模	939	980	980
ニコン	127	125	115

レンズ一体型デジタルカメラ (万台)

市場規模	272	200	200
ニコン	19	10	10

● 売上収益：前年比 518億円増収 (前回予想据え置き)

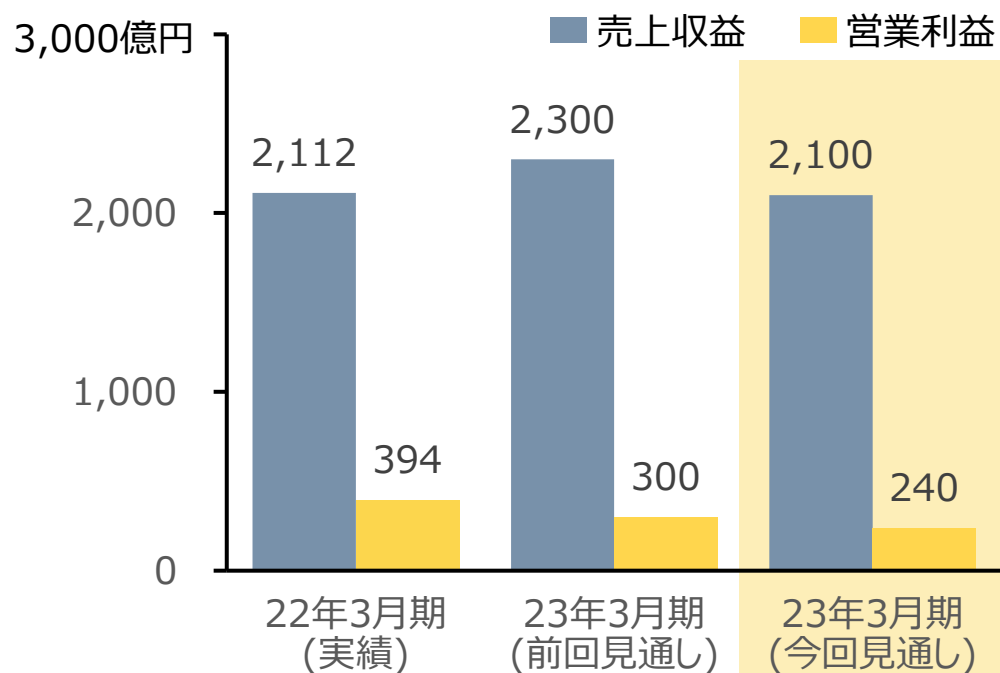
- 部品調達制約が解消に向かい、市場規模は拡大
- 当社は収益性を重視し、プロ・趣味層をターゲットとした中高級機カメラへの注力を継続
- ミラーレスカメラを中心に売上拡大。交換レンズ全体の販売予定本数は、廉価な単焦点レンズを中心に減少も、単価の高い交換レンズの販売本数は増加し、売上は増加。前年比増収を見込む

● 営業利益：前年比 230億円増益 (前回比90億円上方修正)

- 中高級機カメラの販売増、平均販売単価の上昇に加え、円安効果により、前年比増益を見込む
- Q3実績を踏まえ、通期予想を前回予想比90億円引き上げ

注：レンズ一体型デジタルカメラは、ボディとレンズが一体となり、レンズ交換不可のカメラを指す (ニコンの該当機種：COOLPIX P1000, P950等)

2023年3月期 通期見通し：精機事業



FPD露光装置販売台数 (台)			
市場規模 (CY21/22)	116	80	79
ニコン	46	30	29
半導体露光装置販売台数 (新品/中古、台)			
市場規模 (CY21/22)	390	460	480
ニコン	17/18	37/20	28/18

● 売上収益：前年比12億円減収（前回比200億円下方修正）

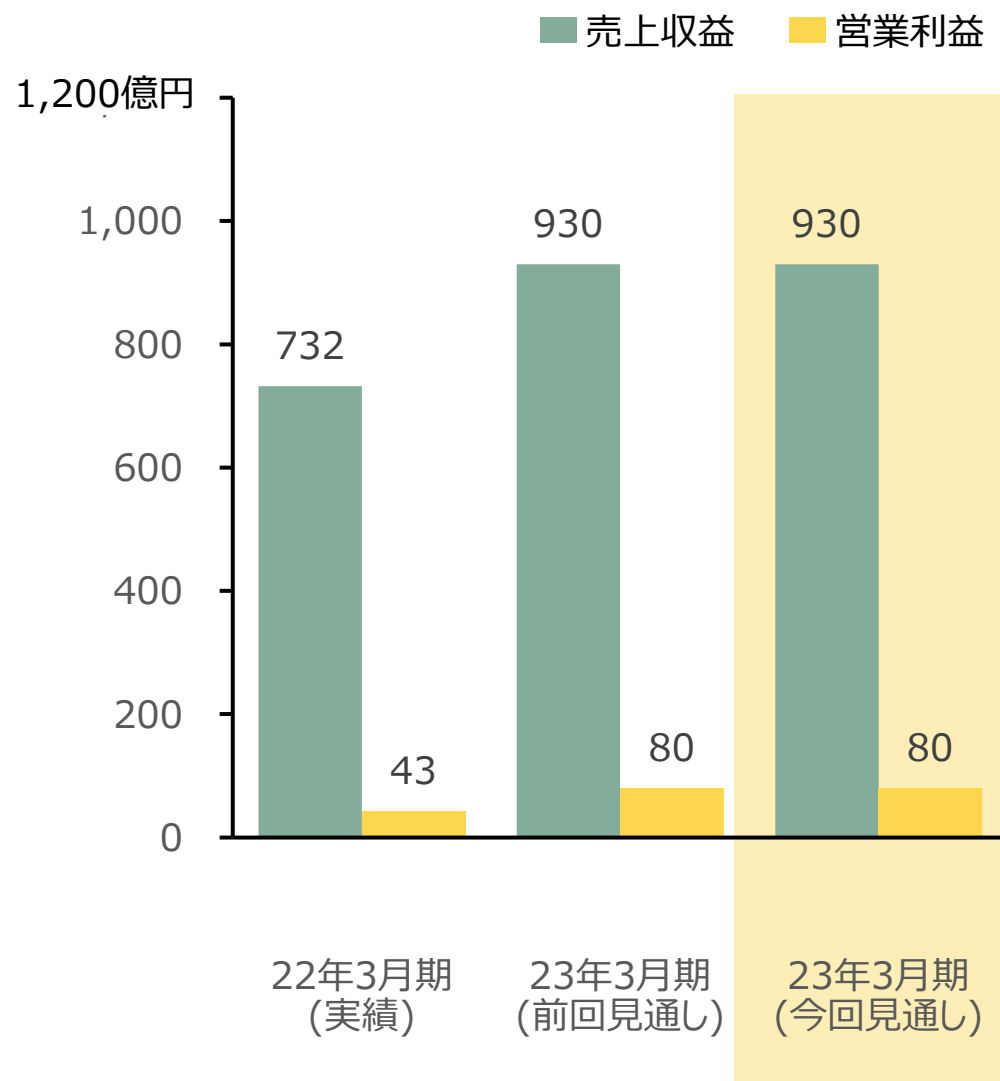
- FPD露光装置はパネル価格下落に伴う顧客の設備投資見直しで市場が縮小したことにより、前年比で販売台数の減少を見込む。前回予想比では一部装置の来期への繰延もあり下振れ
- 半導体露光装置は堅調な需要からArF露光装置を中心に前年比増収。前回予想比では一部装置の来期への繰延があり下振れ
- 精機事業全体では、通期予想を200億円引き下げ

● 営業利益：前年比154億円減益（前回比60億円下方修正）

- 半導体露光装置は販売台数増となるも、FPD露光装置の販売台数減により、精機事業全体では前年比減益を見込む
- 前回予想比では、一部のFPD・半導体露光装置の据付完了の来期への繰延に伴い、通期予想を60億円引き下げ

注：2023年3月期より「次世代プロジェクト本部」は、「精機事業」から「各セグメントに配賦されない全社損益」に移管、2022年3月期へ遡及適用

注：2023年3月期より、半導体露光装置の市場全体及びニコン販売分の双方に、i線を含む非微細化領域の露光装置を含めて表記（2022年3月期分についても新しい台数の計上基準で表示）



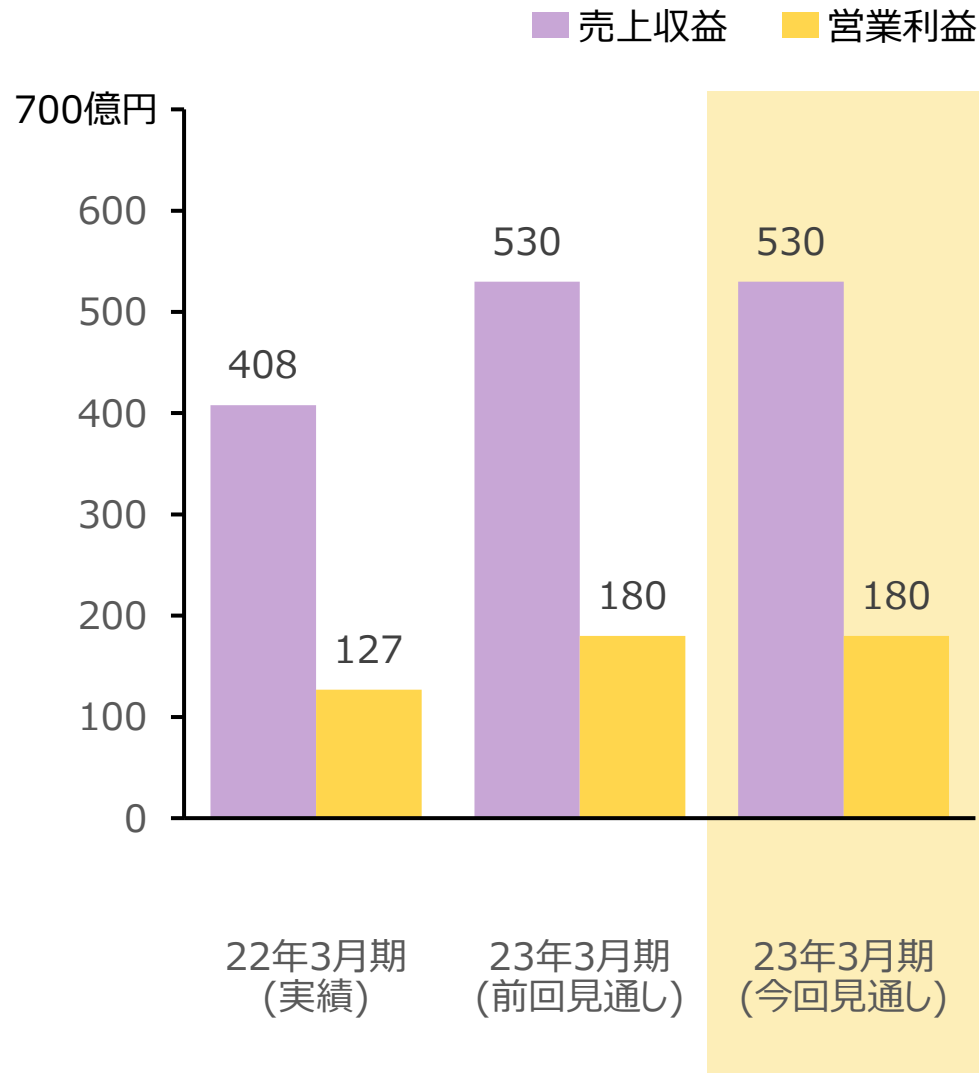
● 売上収益：前年比198億円増収（前回予想据え置き）

- 今期も過去最高の売上を更新する見込み
- 生物顕微鏡は、北米を中心に、中国、その他地域において新製品の拡販および民間市場の開拓による増収を見込む
- 網膜画像診断機器は北米のほか、欧州・アジアでの売上増加を目指す
- 生物顕微鏡、網膜画像診断機器共に半導体部品・物流の逼迫は解消傾向にあるが影響は継続、引き続き安定供給に努める

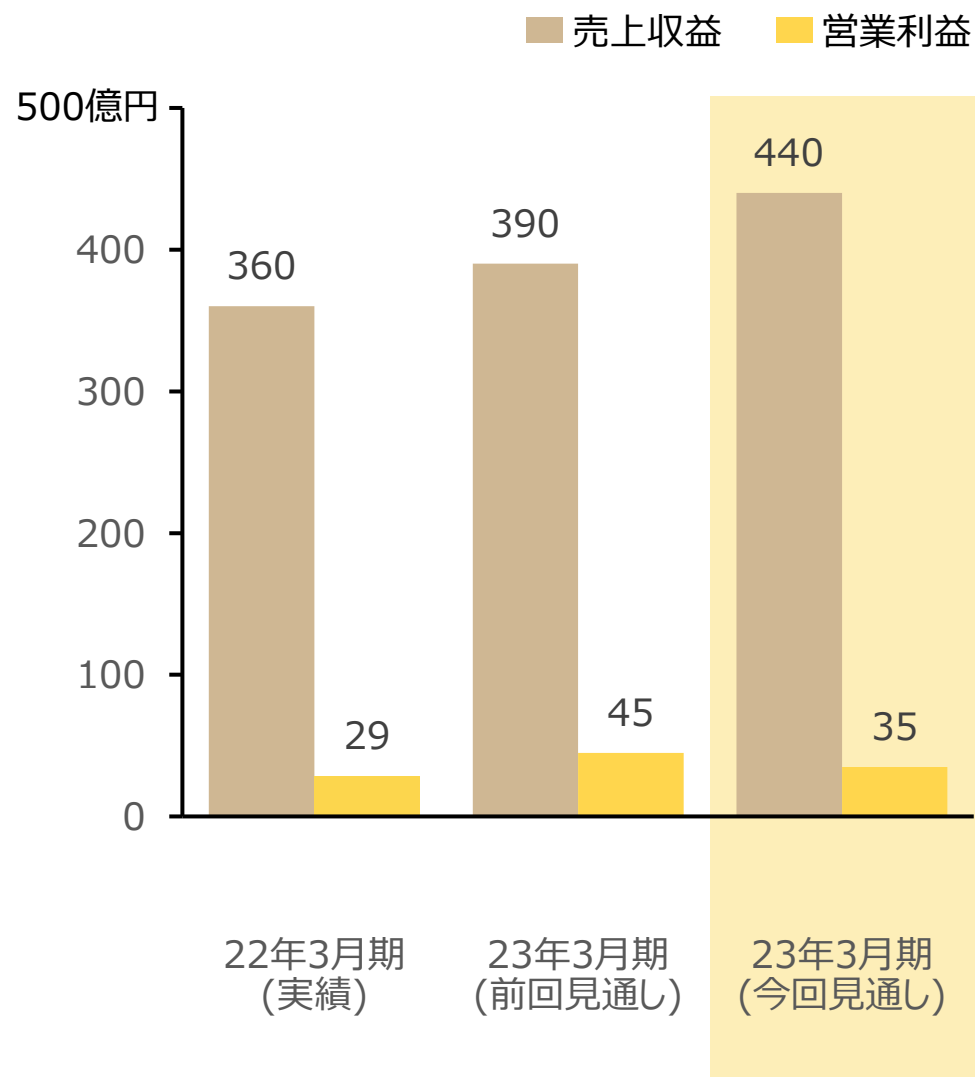
● 営業利益：前年比37億円増益（前回予想据え置き）

- 生物顕微鏡・網膜画像診断機器の増収効果等により、前年比で増益を見込む

2023年3月期 通期見通し：コンポーネント事業



- **売上収益：前年比122億円増収**（前回予想据え置き）
 - EUV関連コンポーネント、半導体関連製品の光学部品・光学コンポーネントやFPDフォトマスク基板等が売上拡大に寄与
- **営業利益：前年比53億円増益**（前回予想据え置き）
 - 売上拡大に伴う増収効果により、前年比で増益を見込む



● 売上収益：前年比80億円増収（前回比50億円上方修正）

- 産業機器事業では、画像測定システムやX線検査装置等の堅調な販売を見込む
- 「その他」には公開買付を完了したSLM社を含む

● 営業利益：前年比6億円増益（前回比10億円下方修正）

- 「その他」に含まれる国内生産子会社は増益
- 産業機器事業では、新製品の研究開発や販売体制強化のため、費用増加を見込む